

協同労働・よい仕事研究交流全国集会 2023 報告

だれもが主人公ーあきらめ、おまかせの社会をこえて

1、集会の主旨・概要・本号の狙い

2023年3月4～5日で協同労働・よい仕事研究交流全国集会2023がオンラインで開催された。全体会515アクセス。分散会では457アクセスであった。

「よい仕事研究交流集会」と冠がついた集会は今回で16回目となる【資料①】*1。本集会は「だれもが主人公ーあきらめ、おまかせの社会をこえて」をスローガンに開催した。

本集会の特徴は、労協法が施行されて初めての集会となり、スローガンにもあるように、よい仕事を深め労協法施行を追い風にして、一人ひとりが主人公として社会をつくることの意味に迫った集会となった。

本号は、多様な実践の報告から「よい仕事」を深めることができるが、掲載内容をヒントに一人ひとりが社会をつくっていくことに向かう契機になればと考え、作成した。

全体会報告、分散会コメントには、2022年度の協同労働の「よい仕事」の実践の成果と課題・展望を見出すことができる。

全体会報告では当日に話された内容とともに、集会参加者の感想と当日開催できなかった西谷修×古村伸宏の対談を後日開催し、その内容を掲載しているので御覧いただきたい。

分散会コメントでは36人のコメンテーターにコメントを寄せていただいた【表①】。各コメンテーターから協同労働の実践の評価とその意味がつづられており、読み応えがあるものとなっている。分散会のコメンテーター・ワーカーズコープの組合員の数人から、「他の分散会にも参加したかった」との話もあったので、それにも一部ですが応えるものになったと考えている。

2、「よい仕事」の起源を振り返る

集会のタイトルにもなっている「よい仕事」について振り返りたい。「よい仕事」とは、原則に記載されているワーカーズコープ連合会全体の根幹となる考え方である。法施行後、新しいワーカーズコープが設立される中で、再度、「よい仕事」とはなにかを記しておくことが必要だと考えている。

*1 ワーカーズコープ連合会35年史P.252-253の資料をもとに、直近開催分を追記した。清掃・公共・子育て・若者等の冠のある集会は外して掲載した。

整理するにあたり、当誌282号(2016年5月発行)「協同労働の協同組合の『よい仕事観』の変遷～永戸祐三労協連理事長へのインタビュー～」*2を紹介する。

協同労働・よい仕事研究交流集会(当時：よい仕事研究交流集会)が始まった背景には、労働者協同組合運動を牽引してきた人たちの以下のような問題意識や考えがある。

“「よい仕事」とはということなのか、どういう意義をもつものなのか、なぜ「よい仕事」が第1原則なのか、というようなことを深め、共通認識をつくっていかなければ、自分たちがいまやっている仕事の範囲でのよい仕事にとどまってしまう”

“利潤企業は国民、利用者、消費者のためにより仕事ができなくなっている。労働者も雇われ者根性で、手を抜いてゼニを稼げればいいとなりがちだ。これがあいまって、利潤企業ではよい仕事ができなくなっている。とくに国民の生活と安全に関わる事業の分野で彼らの弱点が相当出て来ているように思う。単純化して話したが、ここに労働者協同組合の大飛躍の条件がある。本当に国民と結びついて、医療、衣食住、文化、教育、福祉などの領域全般にわたって、協同の力でよい仕事を展開する”

法施行に伴い、行政や地域住民から、特に公共の担い手としてワーカーズコープが目ざされている現状をみても、よい仕事と国民の生活と安全にかかわる事業(公共)の分野における親和性が窺える。

ワーカーズコープ連合会の前身には、戦後の失業対策事業に従事する人たちがつくった全日本自由労働組合があり、当時、失業対策事業の民主的改革が行われる中での経験も「よい仕事」の位置づけに影響を及ぼしている。

“「よい仕事をすることは、労働者の主人公性を高めるもの」という実感をつかんでいた。だから、労働者の主体性・能動性の高まりがなければ「よい仕事」はありえないし、「よい仕事」がなければ働く者の成長もない。それを成立させる絶対条件は、雇われ者根性の克服”

“単純対決的な労働運動からは、仕事固有の価値という考え方は出てこない。そうするとどこまで行っても、労働者は仕事の主人公になれない。経営者のさじ加減でどうにでもなる。だから労働者が主体となって仕事・労働の主人公になる労働者協同組合をつくっていかなければ”

*2 協同の発見282号「協同労働の協同組合の『よい仕事観』の変遷～永戸祐三労協連理事長へのインタビュー」(相良孝雄)P.124-P.140。当時、「よい仕事とは何か」を考える上で、なぜ労働者協同組合が「よい仕事」を大切にしてきたのかの歴史を知ることが、現在の「よい仕事観」を深めるための一助になると考え、掲載した。

こういった、実践に基づく実感の積み重ねにより、「よい仕事」という言葉が生まれ、事業と運動の根幹をなす考え方として位置づけられていく。原則として示された後も、「よい仕事」は定義が決められたわけではなく、日常の仕事における「よい仕事」の実践と「よい仕事」とは何かという振り返りが重ねられることに価値が置かれている。

毎年行っている「協同労働・よい仕事研究交流全国集会」は、そのような全国の「よい仕事」が共有され、学び合う場になっている。

3、「よい仕事」というシンプルであるが根本的な問いを深め、それを実践する契機に

「だれもが主人公ーあきらめ、おまかせの社会をこえて」のスローガンには、よい仕事の起源の精神が、脈々と受け継がれている。一人ひとりが主人公として社会(職場・地域・学びの場等)をつくること。それは逆をいえば、一人ひとりの生き方や働き方があるルールに則るだけでなく、自らが創造する姿勢と行動が肝となる。

労協法によって持続可能な地域社会づくりに資する1つのあり方として、労働者協同組合が位置付けられたことは、協同労働によるよい仕事の実践・運動の成果である。そのよい仕事とは何かを問い続け、それを実践する想像・創造のプロセスのなかに、改めて本集会が開催される大きさを痛感している。

相良 孝雄/荒井 絵理菜(協同総合研究所)

表① 協同労働・よい仕事研究交流集会2023年の分散会コメンテーターコメントタイトル

分散会	コメンテーター	タイトル
設立	藤井 恵里	協同労働の働き方や存在意義を再確認し、可視化し、理解を深め、広げる
3	島袋 隆志	報告から分かる「よい仕事」が生まれる3つのこと
4	久保 ゆりえ	「よい仕事」を織りなすもの
5	福原 宏幸	みんなのおうちづくりのむずかしさと展望
7	辻 浩	地域に開かれた事業所運営で経営を改善した好事例
8	斉藤 弥生	介護供給主体としてのワーカーズコープにみる「ヒューマン・センタード・ケア」の実践
9	小野 奈々	ワーカーズだからできること：社会連帯の試み
10	田村 政司	協同労働よい仕事研究交流全国集会に「いいね」
11	田中 夏子	対話の回路をゆたかにつくり、もめるところはちゃんともめる
13	伊丹 謙太郎	よい仕事が溢れる共生のコミュニティを求めて
14	北出 順子	ひとりを大切にすることは、社会に存在する皆を大切にすること
15	原田 晃樹	ワーカーズコープの社会性とそれが発揮される条件
16	前田 健喜	生命(いのち)の声を聴くこと
17	渡邊 登	協同労働・よい仕事研究交流集会2023第17分散会に参加して
19	安藤 聡彦	いま、子どもの居場所づくりをめぐって議論したいこと
20	下村 幸仁	小規模事業所経営の壁と労協法による持続可能性
21	嶋田 暁文	ワーカーズコープの活動の意義・可能性と課題
22	金谷 一郎	意見反映のコツと地域ネットワーク形成のヒント、さらに良い仕事に誇りを!
23	丹羽 健司	小さなお節介で摘むヒヤリハットの芽
24	柴田 雅美	協同労働・話し合いの価値観を、働く場から暮らす場へ
25	中西 大輔	ウェルビーイングを生み出す話し合いの文化
26	高畑 明尚	孤立と分断、排除を防ぎ、多世代をつなぐ仕事おこしと社会連帯
27	走井 洋一	日々当たり前のことができているという奇跡的なことに気づくこと
28	麻生 裕子	現場の声を大切にすると協同労働に期待
29	菰田 レエ也	異なる地理的条件で活動する事業所の共通点と相違点
30	朝倉 景樹	「ていねい」と「いきおい」の事業所
31	遠藤 知子	共に社会をつくるプロセスの大変さと同時にある楽しさ
32	木原 奈穂子	地域運営の「助演者」としてのワーカーズコープの仕組みづくり
33	川本 健太郎	包括的な労働の場とケアの実現
34	宮崎 隆志	協同労働だから描ける未来
35	古沢 広祐	課題の整理、成果・強みを明確にし共有へ
36	松本 典子	自由なアイデアから生まれる協同労働を担保するガバナンスとマネジメント
37	浅野 慎一	PDCAと独占・寡占に抗して
38	藤本 穰彦	赤崎紀子さんと渡辺隆史さんのお話し
39	香川 秀太	高度化するテクノロジーが考えるべき「良いwork」の5つのポイント
40	林 薫平	炭素と仕事と福祉の循環を支える協同の地域資本をつくらう

■資料① 全国よい仕事研究交流集会の歴史

開催日	集会名	会場
1989/5/19-20	よい仕事研究交流集会	大学生協渋谷会館
1990/10/18-19	団づくり・よい仕事研究交流集会	社会文化会館・全共連ビル
1992/2/17-18	よい仕事研究・交流集会	箱根ホテル南風荘
1993/11/23-24	よい仕事研究交流集会	愛知県労働者研修センター
2010/10/16-17	全国よい仕事研究交流集会	日本教育会館(全体会) 分散会
2011/10/15-16	全国よい仕事研究交流集会2011	狭山市民会館/東京豊島公会堂 分散会
2012/9/22-23	全国よい仕事研究交流集会2012	ニーショーホール/日本教育会館・サンシャ インカンファレンスホール
2014/2/15-16	全国よい仕事研究交流集会2013	日本教育会館(12分科会)
2015/2/28-3/1	全国よい仕事研究交流集会2015	日本教育会館日本教育会館TKP市ヶ谷カン ファレンスホール/TKPガーデンシティ(16 分散会)
2016/2/27-28	全国よい仕事研究交流集会2016	ニーショーホール/明治大学(20分散会)
2017/2/25-26	全国よい仕事研究交流集会2017	ニーショーホール/明治大学(14分散会)
2018/3/3-4	全国よい仕事研究交流集会2018	ベルサール秋葉原/TKP品川カンファレン スホール(15分散会)
2019/3/2-3	全国よい仕事研究交流集会2019	駒澤大学(20分散会)
2021/3/2-3	協同労働よい仕事研究交流全国集会2021	オンライン開催(30分散会)
2022/3/5-6	協同労働・よい仕事研究交流全国集会2022	オンライン開催(40分散会)
2023/3/4-5	協同労働・よい仕事研究交流全国集会2023	オンライン開催(40分散会)

参加人数	スローガン	記念講演・パネリスト
208人		
		富澤賢治/庄司興吉
176人		
201人	人と地域に価値あるあらゆる仕事の事業化/団員一人ひとりの成長、能力の向上	池上惇
622人/584人	協同労働によるよい仕事は労働と仕事の未来に新たな展望を切り拓くか-仕事・労働の過去と現実をつきつめ、その人間的な未来を探る	村上智彦/宮崎隆志/大山典宏
479人/501人	地域をよみがえらせる、ゆたかにする 今こそ、市民の仕事おこしとよい仕事を	大江正章/吉原毅/植田和弘
480人/520人	市民の協同の手による生活圏の創造	田中淳夫/青山裕史
276人/363人	協同労働の「よい仕事おこし運動」を職場から地域へ～人が育ち・学び・つながる、地域がつながり、みんなで支え合う本物の豊かさを、自分たちで作ります、地域の文化と仕事の創造へ～	天童荒太/中村桂子
534人/508人	「はたらくことは人を命につなぐもの」社会的孤立と排除に抗し、「ともに生きる」地域をつくる-自らの果たすべき役割を問う	山崎史郎/佐藤博/丹羽健司/鈴木敬一/小野寺寛一/向谷地生良
645人/592人	市民の手、市民の主体的力による新しい地域、新しい社会づくりは可能か 協同労働・社会連帯による地域からの新しい生活・文化運動の創造へ	佐伯康人/山崎史郎/大高研道/板持周治
601人/497人	市民自らが地域・社会をつくる時代を切り拓く-社会連帯経営の深化が「よい仕事」の全面的発展を促す	関野吉晴/大高研道/伊藤勲
565人/466人	協同労働が法制化される時代 いのちと社会に向き合う協同労働・よい仕事とはなにか、その進化・発展のプロセスをみんなで考える	内山節/大高研道/森康行
509人/456人	全国よい仕事研究交流集会2019-社会をつくるよい仕事-はたらく・くらす・しあわせの円環づくりへ	平田オリザ・宮崎隆志
700アクセス	協同労働・よい仕事を地域へ、いのち輝く、希望ある社会に-	國信綾希/宮崎隆志
600アクセス/500アクセス	労働者協同組合法第1条(目的)を体现する	武本匡弘/宮垣均/宮崎隆志
515アクセス/457アクセス	だれもが主人公-あきらめ、おまかせの社会をこえて	西谷修/宮崎隆志